

---

# 仮面ライダーディバイド

rubixcube

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーディバイド

### 【Nコード】

N9872K

### 【作者名】

r u b b i x c u b e

### 【あらすじ】

世界の破壊者、ディケイド。その真の旅の目的から外れた彼を虎視眈々と狙う者がいた。その名も仮面ライダーディバイド。妹を殺された復讐心から、ディケイドと同じく世界を渡る。各世界でライダーを次々と破壊し、その瞳は何を見る？

## (前書き)

これは、MOVIE大戦2010を見ていない作者が、デイケイドの最終話を見て思いついたものです。なぜ、デイケイドが世界崩壊を促進させていたのか？なぜ、仲間となったはずのデイエンドが攻撃を仕掛けたのか？そんな疑問を感じたとき、後ろに誰がいるのかなあなんて思ったり。そんな感じで書いて見ました。

「飛鳥あずか…？」

病院のベッドの横に佇む青年、みやしろとじま宮代燈馬は恐怖に満ちた顔をする。彼の目の前に置かれたベッド、そこに寝ている妹、宮代飛鳥の体が変化したのだ。まるでその姿は異形そのもの。この世界に出現する未確認生命体にそっくりだった。

「ゴザキボ、タラデ、ン・ガミオ・ゼダ…」

最早人間の言葉を喋らない飛鳥、あまりの出来事に硬直する燈馬を押しつけ、病院の窓を破って出て行ってしまった。

「待ってくれ！飛鳥！」

燈馬も病院から出て、今はグロンギとなってしまうた妹の姿を追い始めた。

「何でだよ、なんでこうなったんだよ！」

今日の今朝までは、笑顔で仕事へと向かっていった彼女。飛鳥の仕事は警察官巡査。燈馬の反対を押し切り、正義感の強い彼女は念願の夢であった警察官にこの春なった。最近起こっていたゲゲルでは、女性警察官ばかりが狙われていると知って心配する燈馬だったが、とある巡査の推理で誕生日に意味があり、飛鳥はその規則性に当てはまらないと知って安心した矢先の事だった。警察本部からグロンギの遺跡に向かい、グロンギを叩くと言う指令が入った。勿論の事飛鳥もそれに参加した。だが、突然発生したガスを吸ってしまい、病院に運ばれてしまう。急いで燈馬が駆けつけたものの、飛鳥はあの様になってしまった。

「どこだ、飛鳥！」

立ち止まって辺りを見回すが、飛鳥の姿どころか、あのグロンギの姿さえ見つからない。だが、騒ぎ声がある。十人単位の大騒ぎだ。燈馬はその方向へと向う。駆けつけた先、そこでは今までに類を見ない数のグロンギがいた。その中で戦う二人の戦士の姿。燈馬はそ

の内の一つには見当がついた。未確認生命体4号。だが、もう一つは見たことも無い姿。

【Attack-Ride Brust】

光弾がグロンギを襲う。しかし、燈馬はその攻撃を受ける中に見たのだ、自分の妹が変化したグロンギの姿を…。

「止めてくれ！俺の妹を！」

しかし、聞こえていないのか4号も徒手格闘の攻撃をやめない。

その内、4号の姿が見る見るうちに変わり、更にグロンギを追い詰めていく。燈馬は妹を助けようと走り出そうとするが、脚が震えて動けない。

後ろの方で構える、親玉だろうと思われるグロンギが、突然周りのグロンギを吸い込んだ。無論、燈馬の妹もだ。燈馬が驚く暇もなく、親玉らしきグロンギが上空へと上がっていく。

【Final-Attack-Ride Ku·Ku·Ku·Ku  
uga】

あっという間にグロンギの親玉は倒されてしまった。死ぬ間際、何やら戦士の一人と話しているが、燈馬の耳には聞こえない。そのまま爆死してしまった。二人の戦士もそれを見届けて去ってしまう。

「あす、か…」

今まで戦っていた場所に向かい、座り込む燈馬。爆発後には何も残っていない。瓦礫のみが散乱しているのだった。

「デイケイドが憎いですか？」

後ろからふと聞こえた声。後ろを振り返った燈馬。そこには茶髪の髪の青年が立っていた。

「デイケイド…？」

「先程まで戦っていた戦士の内、クウ、いや、4号ではない存在の名前です。憎いですか？」

「ああ。アイツは俺の妹を見殺しにした…。4号もだ…」

「4号を恨むのは、少しお門違いでしょう。なぜなら、デイケイド

は4号を破壊しに来たのですから。」

“ 少しお話にお付き合いください。 ” と青年が言った瞬間、二人の周りは宇宙空間に変わった。そこでは幾つかの地球が衝突を起こしている。

「9つの世界に9人のライダーが生まれました。あなたの世界の4号もその内の一人です。しかし、何かの加減で全ての世界に変化が訪れました。オリジナルとしてのライダーの資格者や、その周囲の者たちが世界の奥深くに閉じ込められ、代わりの存在と入れ替わってしまったのです。実を言えば僕もその一人。ディケイドはその入れ替わった偽者の存在を破壊し、オリジナルを助けるのが役目のはずでした。しかし、ディケイドはこの世界の4号を仲間にしてしまいました。これは大きな間違いです。」

「なぜ俺にそんな話をする？」

「あなたはディケイドを憎んでいます。即ち、あなたは本来の使命を捨てたディケイドを追いながら、ライダーを破壊すると言う使命を果たすのにピッタリな存在なのです。このままでは全ての世界は融合し、やがては消滅します。それを加速させているのは、他でもないディケイド。もう彼は用済み、倒してもらっても構いません。どうしますか？」

ディケイドを追い、妹の復讐をする。まさに燈馬が求めていたものだった。しかし、さっき見たあの戦闘力、自分が立てついた所で殺される可能性がある。

「その点についてはご心配なく。これを。」

青年が差し出したのは、白いバックルの様な物。どことなくディケイドの身に着けていた物に酷似している。しかし、中心の部分が緑色だった。

「ディバイドドライバー。ディケイドの有事の際に使用される物です。汎用性に優れるディケイドと違って、本格的な破壊を念頭に入れて設計されたもの。使い方はコレが教えてくれるでしょう。あと、コレも。」

取り出した一枚のカード。それには緑色の戦士の姿の顔が描かれている。顔を半分に割るデザインは、眼の部分とあわせて“÷”の記号を縦にした様にも見えなくない。

「さて、僕に与えられた時間はここまでのようです。キバの世界でお会いしましょう。もし、あなたが虚偽を破壊できたなら。」

そのまま青年は消えてしまった。残された燈馬、あたりの景色も元の世界に戻っていく。

「やってやるよ。真実を見つけ出してやる。」

「ちよつと、止めて下さい！」

「やめるか！」

【Mode - Ride times】

燈馬の変身するデイバイド。戦っているのは響鬼だった。巨大な斧を振り回したかと思えば、デイバイドライバーにカードを一枚装填。斧はその姿を展開させ、“x”を模したブーメランになる。それを投げつけた。

「うわっ！こうなったら…、響鬼、装甲！」

無数のディスクアニマルが飛来し、その姿を赤い装甲響鬼アイムトに変えていく。装甲声刃アイムトセイバーを構え、一気に突っ込んできた。

「甘い。」

【Item - Ride Hyper-Zector】

デイバイドの腰に、前の世界でカプトを倒した時に現れたカードの効果で、ハイパーゼクターが出現する。

【Hyper Clock Up】

一瞬の内に超高速の世界へ入るデイバイド。次の瞬間には装甲響鬼の体は宙を舞っていた。何度も高速で蹴りや拳を入れられ、フラフラの状態である。

「僕は…、このまま負けるわけには…。」

【Final - Attack - Ride De・De・De・De・De】

vide】

デイバイドの紋章が出現し、再び斧型となった武器を振り下ろす。その時に発生した衝撃波が紋章を通過する。最後の紋章を通過した衝撃波は装甲響鬼に炸裂した。

「うあああつ！」

爆散する装甲響鬼。跡形もなくなってしまった。デイバイドの持つ斧の柄の先端についているカードホルダーから、二枚のカードが飛び出てくる。本来デイケイドなら“ファイナルフォームライド”や“カメンライド”カードが出てくるはずだが、デイバイドの握ったカードは違った。“アイテムライド”と書かれている。それぞれ、音撃棒と装甲声刃のカードだった。

デイバイドの後ろに灰色のオーロラが出現する。そこから、一人の中年男性が出てきた。

「よお、青年。待ってたぜ。シュツ！」

特徴的なポーズで挨拶をしてくるその男。オリジナルの響鬼だ。デイバイドがアスムの変身する響鬼を倒した為、こうやって戻る事ができた。デイバイドは、挨拶もそこそこに一枚のカードを装填する。

【Magic-Ride Phantom】

一瞬灰色のオーロラが揺らめくと、そこからアスムの姿が現れた。しかし、言葉を喋らない。それもそうなのだ。彼はデイバイドの“マジックライド・ファントム”の効果で出現したアスムの幻影。例えるとすれば、デイエンドの召還ライダーの人間体バージョンであろうか。デイバイドは変身を解除し、宮代燈馬の姿に戻る。そしてアスムに語りかけるのだった。

「いいか、お前はこれから本物の響鬼と一緒に、デイケイドの所へ向え。キバの幻影と合流し、デイケイドと話をするんだ。あいつを悩ませる。その後にブレイドと合流し、その上でデイエンドと共にファンガイアの女王を潰せ。お前の役目はそこまでだ。」

一つうなずき、アスムの幻影は響鬼と共に灰色のオーロラへ入っ

ていくのだった。

「これで役者は揃った。」

燈馬自身も灰色のオーロラを潜って行った。

燈馬は崖の上から下を眺める。見事、夏海を救い出したデイケイドとデイエンド。そこで予定通りキバと響鬼の幻影が消えた。

「キバと響鬼の世界が、消えた…？」

驚くデイケイド。燈馬はニヤリとする。デイケイドは既に燈馬の手の中で踊らされているのみ。後は、デイケイドとクウガを倒すのみだ。クウガがデイケイドと共に旅に出してしまった為、オリジナルのクウガを救うのが最後となってしまった。しかし、直ぐに全てが終わる。

【M a g i c - R i d e P h a n t o m】

クウガアルティメット、デイエンドの幻影を出現させる。予め準備をさせておいたオリジナルのライダー達の中に紛れ込ませた。本物のデイエンド、偽のクウガはデイバイドが叩く。本当なら、妹の敵であるデイケイド達はデイバイド自身が倒したい所だが、力量を考えてこの様な作戦となった。クウガも飛鳥を見殺しにした一人だ。燈馬は拳を強く握る。

「デイケイドオオオオ！」

こうして、デイバイドの本当の戦いが始まったのだった。

## （後書き）

### ・宮代燈馬

仮面ライダーディバイド。ライダー破壊の任務を辞めたディケイドのピンチヒッターとして、クウガの世界から世界を超える旅を始める。最初より性格が冷たい物となっているが、その理由は連載されると分かるかも？

### ・ディバイド

汎用性に優れたディケイドの攻撃重視型ライダーシステム。色は緑で眼は黄。仮面は一本の線と目を併せて「𠄎」の記号を縦にしたような感じ。武器は斧型のライドアックス。ライダーを破壊する為だけの存在のため、カメンライドは使えず、カードも持っていない。同様の理由でFFRも無し。その代わりに、「アイテムライド」や「マジックライド」などの特殊効果を使える。

いかがでしたでしょうか？実を言えば、この作品のディバイドはアメリカで数学の授業を受けた時に思いつきました。英語で「4割る5」は「4 divided by 5」というんです。∴ たぶん（オイッ！）。割るから武器はアックスだななんて思ってた。

作者の中では、ライダーを破壊するのは、オリジナルの存在を助ける為だと解釈してます。だから変身者が違うんです。それを倒せばオリジナルが復帰して、世界崩壊を止められると考えました。納得いかない方、こういう見方もあるという方、感想ください。いつか連載小説にできるといいなあなんて思ってます。その時はダブルの次のが始まってるでしょうが…

追記：小説家になろう様では、たくさんデイケイドのパロディ型小説ありますよね？作者も一応、読もうの方で“仮面ライダーデイバイド”と検索したのですが、一件も引つかかりませんでしたので、投稿に至った訳です。もし、名前が被っている小説があつたら、教えてください。その作者様に速攻で謝って、名前の使用を認めてもらいたいと思います。無理だったら、削除かな…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9872k/>

---

仮面ライダーディバイド

2010年10月8日15時22分発行